

# 平成29年度（第62期）事業報告

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

## 1. 会員の異動状況

会員の種類		本期末会員数	前期末会員数	差引増減
名誉会員		14	13	1
正会員		2513	2483	30
学生会員		157	152	5
維持会員	S級	4	4	0
	A級	9	8	1
	B級	5	6	▲1
	C級	13	13	0
	D級	14	14	0
	E級	120	116	4
	合計	165	161	4
	公共会員	11	12	▲1

## 2. 事業の状況

### (1) 行事

行事名	講演件数	参加者数	期日	場所
第62回トライボロジー先端講座	4	48	平成29.4.14	東京
トライボロジー会議 2017 春 東京	210	805	平成29.5.15-17	東京
第61期定時社員総会・特別フォーラム	2	130	平成29.5.16	東京
平成28年度評議委員会	0	45	平成29.5.16	東京
第453回トライボロジー懇談会	4	20	平成29.6.19	福岡
第48回トライボロジー入門講座	8	100	平成29.7.27-28	東京
第8回日中トライボロジー先端フォーラム	16	40	平成29.9.15-17	中国 鎮江
サステナブルトライボロジー会議 2017 奄美大島	29	70	平成29.10.13-16	鹿児島
日本-台湾国際シンポジウム	13	70	平成29.10.13-16	鹿児島
第3回トライボロジー国際技術交流会	4	58	平成29.10.26-27	ベトナム ハイフォン
第10回トライボロジー入門西日本講座	8	61	平成29.10.26-27	愛知
トライボロジー会議 2017 秋高松	313	836	平成29.11.15-18	香川
第2回日本-チェコトライボロジーワークショップ	29	60	平成29.11.15-16	香川
添加剤技術研究会企画講座	15	84	平成29.11.29-30	東京

第8回トライボロジー秋の学校	2	97	平成 29. 12. 7-8	愛知
第10回トライボロジー・スキルアップ講座	5	36	平成 30. 1. 23	東京
第10回トライボロジーテーマ別基礎講座	4	43	平成 30. 2. 21	東京
第454回トライボロジー懇談会	1	12	平成 30. 3. 19	宮城
第63回トライボロジー先端講座	4	36	平成 30. 3. 29	東京

- ・ 教育講習の各種講座（入門，テーマ別，スキルアップ，先端等），懇談会を例年通り開催した。先端講座では，ダイヤモンドライクカーボン膜（DLC）の適用事例と最新製膜技術，表面テクスチャーと分子シミュレーションの適用事例と最新技術について取り上げた。
- ・ 添加剤技術研究会ではほぼ2年に1回開催している企画講座を開催した。今年は『潤滑油基材の基礎と最新動向—基油・添加剤技術の今を学ぶ—』と題して開催した。
- ・ トライボロジー会議では，2017春東京および2017秋高松において，実用化技術の研究発表をしやすいように改めたプログラム作成に際しての分類を継続し，企業の発表奨励に取り組んだ。
- ・ 海外向け活動にも積極的に取り組み，第8回日中トライボロジー先端フォーラム，日本—台湾国際シンポジウム，日本—チェコトライボロジーワークショップを開催した。
- ・ 日系海外現地法人で働くエンジニアの技術交流機会の提供を目的に，第3回トライボロジー国際技術交流会をベトナム・ハイフォンで開催した。

## (2) 会誌

- ・ 会誌「トライボロジスト」，電子版トライボロジスト誌（J-STAGE に掲載），英文電子ジャーナル「Tribology Online」を発行した。
- ・ 「トライボロジスト」は12回発行。ページ数本文 776 ページ（62 巻 4 号～63 巻 3 号）。
- ・ 特集として「シール技術の最新動向」，「楽しく学ぶトライボロジー —トライボロジー教育の実践事例—」，「生分解性潤滑油の動向」，「樹脂材料のトライボロジー」，「金属材料のトライボロジー」，「工作機械のトライボロジー」，「楽器のトライボロジー」，「トライボロジー分野におけるセンサを活用したメンテナンス技術」，「燃費低減のためのエンジントライボロジー技術」，「機能性炭素系コーティングのトライボロジー」，「軸受のトライボロジー」，「研削加工にまつわるトライボロジー」を刊行した。  
また，「随筆 トライボ草子」，「トライボロジー・ナウ トライボロジー海外体験記 —アラウンド・ザ・ワールド—」，「入門講座 トライボロジー教室」，「技術資料 トライボツール開発記 —ブレイクスルーへの挑戦—」の連載を継続している。
- ・ Tribology Online, Vol.12, No.3 で，自動車関係の特集号「Special Issue on Automotive Tribology」を発行した。

### (3) 研究会

表面力研究会を新設し、今期は31の研究会が活動を行った。なお、学会指定研究会「オープンイノベーションを目指した技術動向調査研究会」と会員提案研究会「エコマシニングとトライボロジー研究会」は今期をもって終了する。

研 究 会 名	種 別 <sup>*)</sup>	回 数	場 所
オープンイノベーションを目指した技術動向調査	学会指定	5	東京4回, 神奈川1回
添加剤技術	産学協同	5	すべて東京
固体潤滑	産学協同	3	山梨・香川・東京
グリース	産学協同	4	東京・富山・香川・東京
転がり軸受寿命	産学協同	2	東京・東京
エンジン潤滑	会員提案	3	東京・東京・東京
転がり疲れ	会員提案	2	東京・神奈川
シール	会員提案	2	兵庫・東京
鉄道のトライボロジー	会員提案	1	神奈川
ファイル記憶のトライボロジー	会員提案	2	東京・東京
摩 耗	会員提案	2	愛知・神奈川
メンテナンス・トライボロジー	会員提案	2	兵庫・長野
塑性加工のトライボロジー	会員提案	2	東京・東京
トライボケミストリー	会員提案	2	神奈川・東京
自動車のトライボロジー	会員提案	4	愛知・愛知・愛知・北海道
アルミニウムのトライボロジー	会員提案	1	愛知
高分子材料のトライボロジー	会員提案	4	東京・鹿児島・東京・神奈川
“超”を目指す軸受技術	会員提案	3	すべて京都
スペーストライボロジー	会員提案	1	東京
エコマシニングとトライボロジー	会員提案	0	—
分子シミュレーションのトライボロジーへの応用	会員提案	2	鹿児島・東京
変速機のトライボロジー	会員提案	2	東京・北海道
機能性コーティングの最適設計技術	会員提案	1	神奈川
テクスチャリング表面のトライボロジー	会員提案	2	宮城・茨城
エロージョンとその応用	会員提案	1	富山
境界潤滑	会員提案	2	東京・東京
工作機械のトライボロジー	会員提案	3	東京・東京・東京
トライボダイナミクス	会員提案	2	神奈川・高松
表面力	会員提案	3	香川・東京
日本海トライボロジー	地 区	1	新潟
北海道トライボロジー	地 区	1	北海道

\*) 研究会の旧種別との対比は次の通り。

学会指定・・・第1種, 産学協同・・・第2種, 会員提案・・・第3種

#### (4) 主な取り組み

学会員のメリット向上、学会のガバナンス・コンプライアンスの強化を目的として、各委員会が目標を設定し、理事会でフォローアップしながら以下に取り組んだ。

- ・ 平成 29 年 9 月 4 日に内閣総理大臣からの公益目的支出計画の実施完了の確認書を受領した。これにより日本トライボロジー学会は 62 期から、移行法人を外れて正式に一般社団法人となった。
- ・ 学会活性化を図る課題を調査するため、非会員へのアンケートを実施した。集計をまとめた結果、学会員以外の方々にトライボロジー学会の存在を広く認識してもらい、学会活動への参画を促進するための活動が必要なことが明らかとなった。
- ・ 業務リスクを軽減し、柔軟性のある学会事務局体制に見直す計画を作成した。
- ・ 学会規則の総整備と現行ガバナンスとの整合を目的として、規程や内規を各担当委員会にて見直しを行い完了した。
- ・ 学会のコンプライアンスへの取り組みの一環として、トライボロジー会議 2017 春東京にて第 4 回倫理シンポジウム「安全と研究倫理・技術者倫理について考える」を開催し、技術者の責任ある行動とは何かについて紹介を行った。
- ・ 会誌「トライボロジスト」出版費削減活動（第 1 次）に取り組み、約 2 割の削減を達成した。
- ・ Tribology Online の論文に CC ライセンスを導入した。
- ・ 投稿論文の量・質の向上を目的として、会誌「トライボロジスト」と英文電子ジャーナル「Tribology Online」の校閲業務統合のため、校閲委員会と英文オンラインジャーナル編集委員会を統合した。
- ・ Tribology Online のプレゼンスを高める取り組みとして、WTC2017（北京）で Tribology Online 特別号を配布し、論文投稿数が増加する見込みを得た。
- ・ より受講者が理解しやすい講座開催を目指すため、カリキュラムの再編案を計画し、入門講座、テーマ別基礎講座、スキルアップ講座を入門講座、応用講座（設計編）、応用講座（実験・計測編）とする素案をまとめた。
- ・ 学会入会のメリット策として、5 年経過後のトライボロジー会議予稿集を会員限定コンテンツとして閲覧可能とする計画を完了した。（2018 年 4 月オープン予定）
- ・ 大幅改定した研究会関連規程のもと、その周知・運営に努めるとともに、次期に立ち上げる新たな学会指定研究会を企画した。
- ・ 表彰対象の選考において、表彰委員会と関連委員会との連携を強化した。さらに、功績賞選考のための参考資料の充実を図った。
- ・ 論文賞および TROL 論文賞は一本化する方針を決定した。
- ・ ITC2019 Sendai の講演数・参加数増大のために、名刺大のパンフレットを WTC2017(北京)で配布した。
- ・ アメリカ潤滑学会（STLE）と、連携について WTC2017(北京)で協議した。